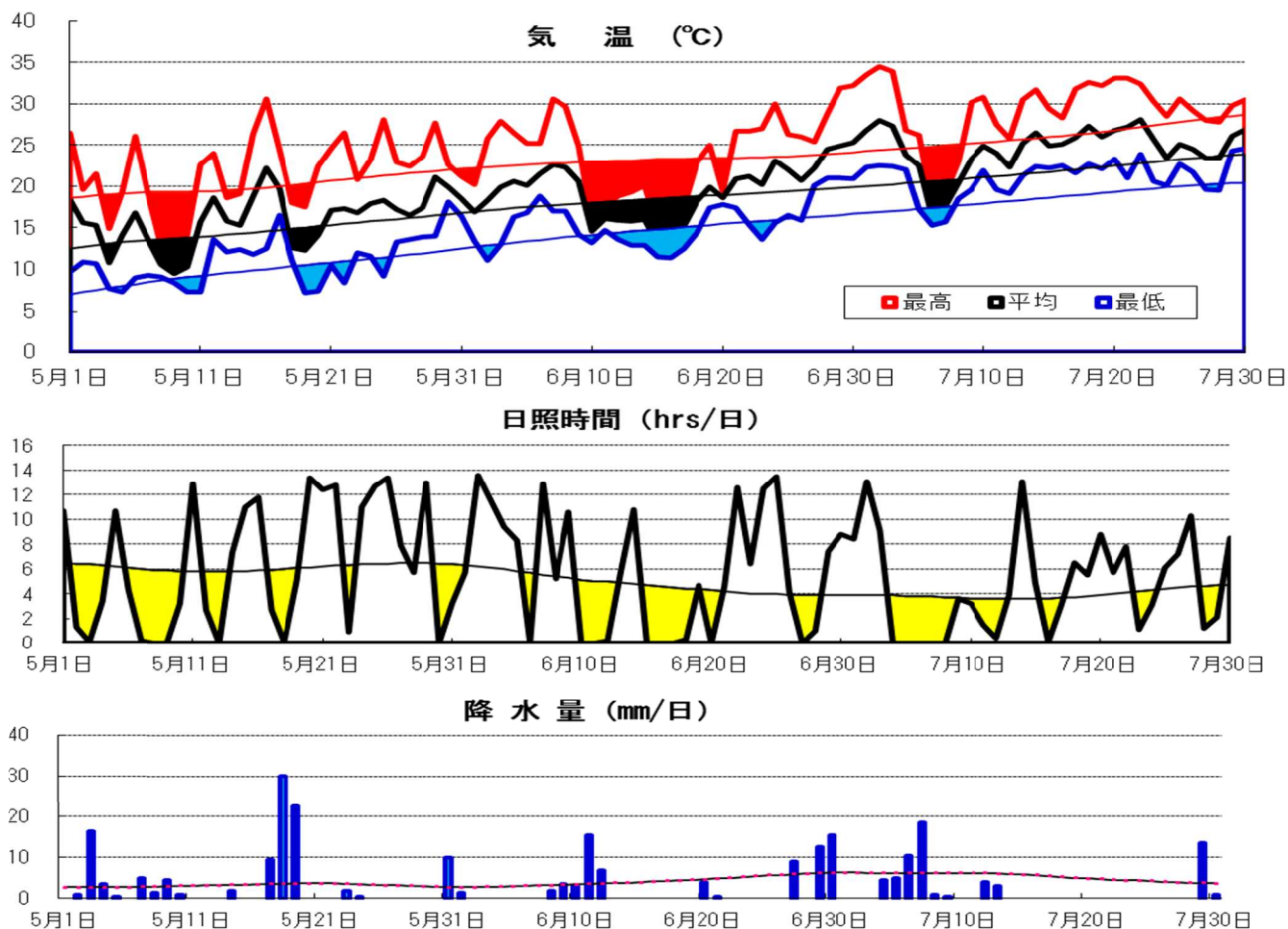


~~茎長やや長く、ほぼ順調、開花期乾燥時灌水効果大~~

1 気象経過



- ・ 7月初めは一時期低温だったものの、その後は大陸、海からの高気圧により、かなり高温傾向が続いている。
- ・ 日照時間は、断続的に変化しているが、7月上旬を除きこれまで多照傾向である。
- ・ 降水量は7月に入ってから、上旬を除き、かなり少雨傾向が続いている。
- ・ 台風12号が日本に上陸し、特異的な経路をたどったが、東北地方にはほとんど影響がなかった。

2 生育状況

(古川農業試験場作況試験圃)

- ・ 主茎長は、標播で71~79cmで、平年より10~14cm長く、前年より1~4cm長かった。
- ・ 主茎節数は、15.2~15.9節で平年より1~1.7節と多く、前年よりも多かった。
- ・ 分枝数は3.7~4.9本で平年及び前年より多く、総節数は34~40節と平年並~やや多かった。
- ・ 開花期は7/22~7/29で平年より4日、前年より2~4日早かった。

米山：タチナガハ 7/30 現在



播種期	品種名		開花期 (月/日)	主茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数 (本/本)	総節数 (節/本)
標播	タンレイ	本年値	7/22	79	15.2	3.7	34
		前年差	1日早	+4	-0.5	+0.7	+2
		平年差	4日早	+14	+1.0	+0.8	+4
	タチナガハ	本年値	7/22	71	15.9	4.9	40
		前年差	4日早	+1	+0.5	+2.3	+9
		平年差	5日早	+9	+1.7	+2.3	+13
	ミヤギシロメ	本年値	7/29	79	15.9	4.0	39
		前年差	2日早	+1	+1.6	+1.5	+10
		平年差	4日早	+9	+1.7	+1.3	+11
晩播	タンレイ	本年値	—	18	5.0	—	—
		前年差	—	+1	+0.6	—	—
		平年差	—	+1	+0.6	—	—

注1) タチナガハは出芽不良のため参考値とする

2) 平年差はH29を除く過去5か年の平均値との差

3) 栽植密度の設定は、標播が条間75cm・株間20cm、晩播が条間75cm・株間10cmとした（1株2粒播種）

3 今後の管理

1 干害対策

- ・降雨が少ない状態が続く場合、土壌の乾燥状況を見ながら、畦間や暗渠を利用して灌水することが有効である。
- ・開花時期の灌水は、落花・落莢を抑制し、着莢率を向上させる効果が期待される。

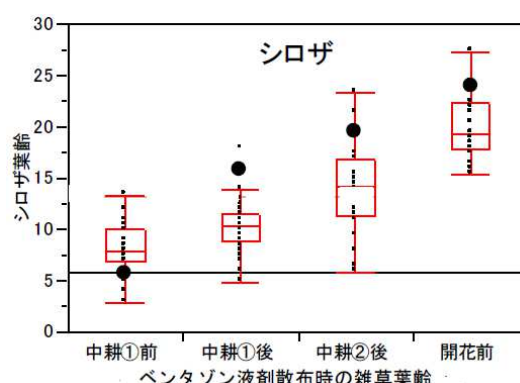
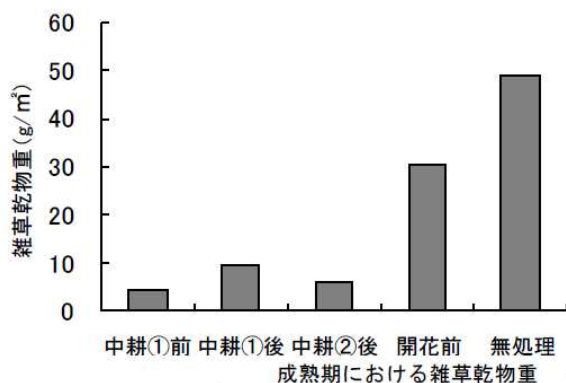
2 湿害対策

- ・排水対策の重要な時期は、①播種直後の発芽期、②根粒着生から開花前までの生育前期と③子実が肥大する生育後期である。
- ・生育後期は、湿害により未熟粒や障害粒が発生するので、登熟を良好にするために排水対策が重要となる。



3 大豆の雑草防除（ベンタゾン：大豆バサグラン）

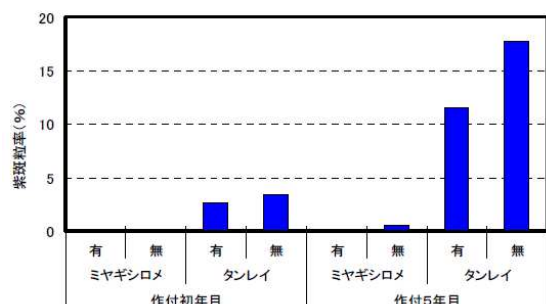
- ・大豆の生育が進むと、茎葉や雑草に妨げられるので1回目の中耕培土前（大豆3葉期頃）が最も高い。
- ・開花期直前の散布では除草効果が大きく低下するので、遅くとも開花の2週間～10日前までに散布する。
- ・ベンタゾン液剤の散布時期が遅くなるほど6葉期を超える雑草の割合が増加する。



4 病害虫防除

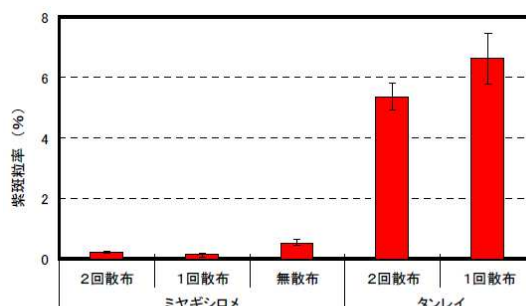
【紫斑病】

- ・害虫と同時防除可能なので、生育ステージを観察して、開花 20～40 日に 1～2 回薬剤を散布する。



作付年数、品種および茎葉散布の有無

作付年数、品種および茎葉散布の有無による紫斑病の発生状況 (平成20年, 場内試験)

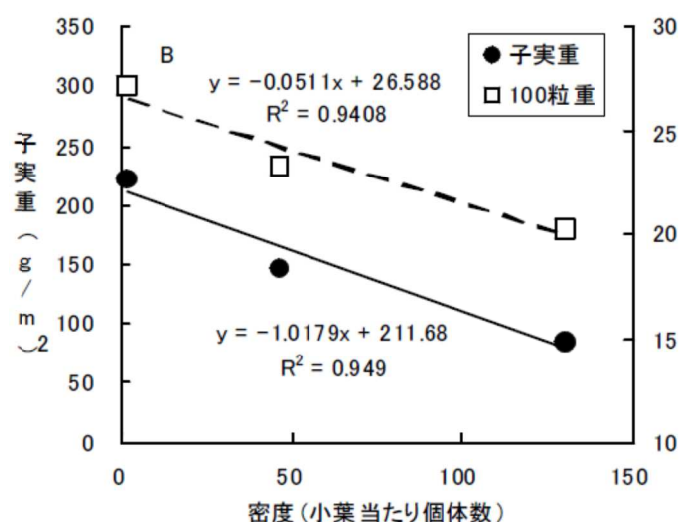


品種および茎葉散布の有無

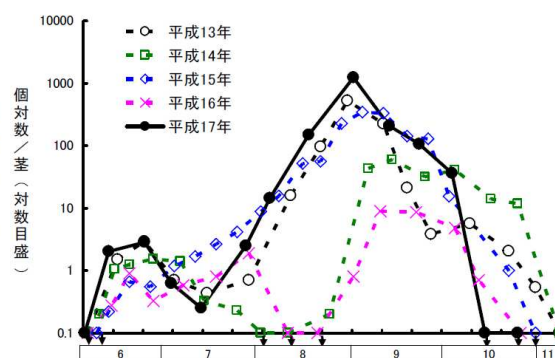
防除回数別ミヤギシロメおよびタンレイにおける紫斑病の発生状況 (平成20年, 大崎市古川)

【ジャガイモナガヒゲアブラムシ】

- ・例年8月下旬から9月上旬に密度がピークに達するので、発生が多い場合は早めに防除する。
- ・防除後も密度が低下しない場合や急激に密度が高まった場合には、薬剤の種類を変え追加防除する。
- ・葉裏に寄生しており、薬液が葉裏によくかかるように散布する。



密度 (小葉当たり個体数)



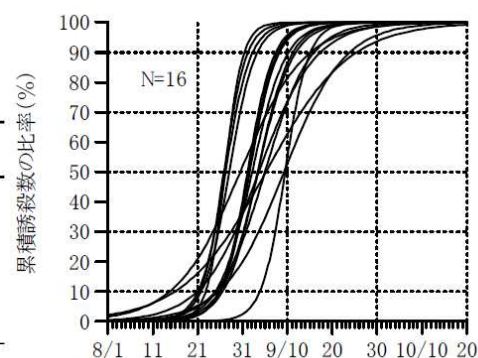
ダイズのジャガイモナガヒゲアブラムシの発生消長 (古川農試)
個体数/茎が0.1以下の場合には↓で示した。殺虫剤・殺菌剤は無散布。

【マメシクイガ】

- ・大豆を連作すると発生が多くなるので、特に連作ほ場では発生に注意する。
- ・成虫の発生盛期は地域によって差はみられるが、8月第6半旬～9月第1半旬の範囲である。
- ・防除適期は成虫発生盛期からその10日後までである。

ロジスティックモデルにより推定された発生時期			
地点	成虫発生盛期	産卵盛期	孵化盛期
1	9月1日	9月4日 (+3)	9月11日 (+10)
2	8月29日	8月31日 (+2)	9月10日 (+12)
3	8月28日	8月28日 (±0)	9月7日 (+10)

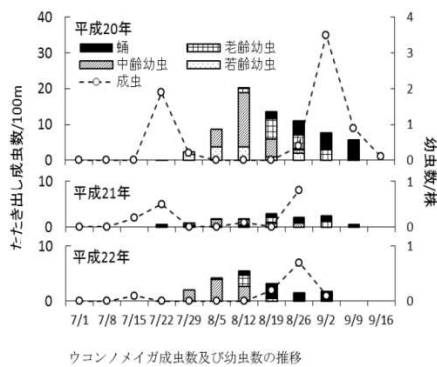
注 () 内の数値は成虫発生盛期からの日数



宮城県におけるマメシクイガ成虫の発生パターン

【ウコンノメイガ】

- ・防除適期は 中齢幼虫初発時期と考えられるので、防除する場合は8月上旬に行う。
- ・下記の要防除水準を参考にしながら、よく発生状況を観察して防除する。



大豆におけるウコンノメイガの要防除水準

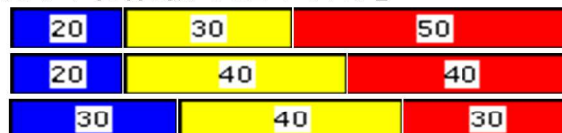
減収率(%)	要防除水準	
	葉巻率(%)	1本当たりの葉巻数(個)
5	1.6	1.3
10	5.2	2.9
15	8.5	4.7
20	11.6	6.7

1ヶ月予報

- ・太平洋側では、天気は数日の周期で変わる。
- ・1か月の平均気温は、高い確率50%, 降水量は、平年並または多い確率ともに40%である。
- ・週別の気温は、1週目は、高い確率70%で、2週目は、平年並の確率50%である。

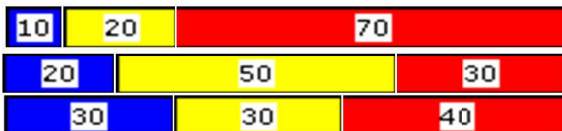
【1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)】

【気 温】 東北
 【降 水 量】 太平洋側
 【日照時間】 東北



◆週別気温経過の各階級の確率(%)

1週目 東北
 2週目 東北
 3～4週目 東北



■ 低,少 ■ 並 ■ 高,多

1週目 7月28日(土)～8月3日(金)
 2週目 8月4日(土)～8月10日(金)
 3～4週目 8月11日(土)～8月24日(金)